

編集後記

本号の編集後記は、日本神経化学会第68回大会（名古屋）から約1か月が経過した今、執筆しています。多くの会員の皆様にご参加いただき、活発な議論と交流が繰り広げられました。大会の詳細につきましては、次号（第64巻第2号）で詳しくお伝えいたします。

今号では、特集「輝け次代の担い手たち」として、高露先生、山崎先生、安藤先生、中嶋先生にご執筆いただきました。いずれも神経化学の新たなフロンティアを切り拓く力強い研究です。

「研究室紹介」では、九州大学の高野先生、浜松医科大学の新明先生、金沢大学の齋藤先生、そして New York University の Dan Ohtan Wang 先生にご寄稿いただきました。多様な研究環境や研究者像が紹介され、独立を目指す若手・中堅の方々にとっても多くの示唆に富む内容となっています。

「海外留学先から」では、米国やカナダで研鑽を積む春若、中島、天野、三橋の各氏が、それぞれの現地での挑戦と成長を語ってくださいました。留学を志す方々にとって、実践的で勇気づけられる内容です。

白尾先生による「私と神経化学」では、ドレブリン発見から創薬ベンチャーの立ち上げに至るまで、半世紀にわたる研究の歩みを振り返っていただき、読み応えのある内容となっています。

最後に、本学会名誉会員・鈴木邦彦先生の追悼文を、辻先生にご執筆いただきました。鈴木先生は、本学会のみならず、International Society for Neurochemistry (ISN) の President、Journal of Neurochemistry の Chief Editor としてもご活躍され、神経化学分野の発展に大きく貢献されました。謹んで、鈴木先生のご冥福をお祈り申し上げます。

ご執筆・ご協力くださった皆様に厚く御礼申し上げます。出版・広報委員会では、本誌をより魅力的な機関誌とすべく議論を重ねております。今後も皆様からのご意見・ご提案をお待ちしております。

澤本和延（名古屋市立大学）

Facebook の公式アカウントも是非ご覧下さい。

<https://www.facebook.com/694342057338890/>

学会からの情報（大会開催・公募情報・学術集会等）や記事（神経化学トピックス・研究室紹介等）を随時配信していきます。

できましたら、「いいね！」のクリックを！



QRコードからも
アクセスできます